

皆様おはようございます。 いよいよ3月に入りました。最高気温は二桁になり、いよいよ暖かい日がやってまいりました。

ウクライナの情勢は常に予断を許さない状況にあります。 現地にも私たちの家族、アライアンスの教会があります。主にあるたくさんの兄弟姉妹がいます。400万人の人口のうち、120万人以上の人々が住むところを追われて国外に逃がれ、多くの人たちがシェルターの中に住んでいます。

アライアンスのネットワークからの祈りのリクエストです。

「ウクライナのアライアンス教会は、キエフ地域の3つの教会と、ウクライナ東部の12の教会で構成されています。アライアンス教会のメンバーの50%は国内避難民（IDP）であり、2014年の東部紛争とクリミア占領のためにすでに家を追われていました。ロシアの侵略前にウクライナにはすでに140万人のIDPがいましたが今はその数字は更に多いと思われます。

次の課題のためにお祈りください。

ウクライナのアライアンス教会の理事長であるセルゲイ・ガッツ牧師、そして教会の牧師と指導者に知恵と力が与えられますように。彼らは、苦しんでいる多くの人々を助け、支援しようと努めています。

キエフとウクライナ東部のアライアンス教会の信者と指導者の安全のために。

ウクライナ国民、そして教会員が身体的、精神的、心理的な圧迫から守られますように。

戦争の終結と平和が実現するように。

福音を分かち合う機会が与えられた時に教会が大胆に行動することができますように。

国内避難民（IDP）の人々がトラウマとその心理的負担からの癒されますように。」

主にある兄弟姉妹のお守りのため、また多くのウクライナの人民のために、祈り続けて参りましょう。

さて 3月に入るとともに今日から受難節に入りました。 主の御苦しみを深く

心に覚えて過ごして参りたいと思います。 イースターは4月17日です。

今年の聖句 ヨハネ4章34節 「私の食べ物とは私をお遣わしになった方の御心を行いその業を成し遂げることである」 このみ言葉に導かれここまで過ごしてまいりました。 イエス様は、お遣わしになられたお父様の御心を食べ物として進まれました。 ベテスダの池にて、38年の間苦しむ人を見て、安息日だからといって 彼を通り過ぎることなく、「私の父は今もなお働いておられるだから私も働くのだ」とおっしゃって、癒してくださいました、青草の上、人々を座らせ、男だけでも五千人の人を食べさせ、そして湖の上を歩き、そしてご自分が命のパンであることをお示しになりました。

イエス様は ご自身の肉体をもささげ尽くして人々の為の贖いになる決意を持って私は命のパンだ、まことの食べ物でありまことの飲み物であると言いました。 しかし人々は、「これはヨセフの子イエスではないか。わたしたちはその父母を知っているではないか。わたしは天から下ってきたと、どうして今いうのか」。「この人はどうして、自分の肉をわたしたちに与えて食べさせることができようか」と、このようにつぶやきました。 人々は深い洞察をもってイエス様に聞くことができませんでした。

53 イエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。

55 わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。

56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。

60 弟子たちのうちの多くの者は、これを聞いて言った、「これは、ひどい言葉だ。だがそんなことを聞いておられようか」。

人々はそうつぶやき言いました。彼らもまたそれまでイエス様に聞き従ってきた者たちでしたが、もうそれ以上信じられなくなっていました。

61 しかしイエスは、弟子たちがそのことでつぶやいているのを見破って、彼らに言われた、「このことがあなたがたのつまずきになるのか。

62 それでは、もし人の子が前にいた所に上るのを見たら、どうなるのか。

63 人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。

ここには、つぶやきがあります。つまずきがあります。「これは、ひどい」との憤慨があります。人は神様のお導きに耐ええず、不満を漏らしてもう従い通せないと思う思いがあります。

65 そしてイエスは言われた、「それだから、父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできないと、言ったのである」。

6:66 それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。

人が、神様のお言葉に対して、「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか」と思うという事、そうやってつぶやき、つまずき、信頼できないと思い、去って行って、もはやイエス様と行動を共にしなくなるという事は、非常に悲しいことです。私たち人間の命運は、神様のお言葉に従うかどうかにかかっているというのに、人がこのようにして神様の言葉を聞くことから脱落してしまう事実を見ることは大変に悲しいことです。

しかしこのことは、世界の始まりの時にも見いだされるものでした。

創世記 2 章

2:16 主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。

2:17 しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう」。

創世記 3 章

1 さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。へびは女に言った、「園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか」。

2 女はへびに言った、「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、

3 ただ園の中央にある木の実については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました」。

4 へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。

5 それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」。

6 女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。

「取って食べてはならない、食べるときと死ぬ」と言われていたのに、人は目が開け、神のように善悪を知る者となりたいと願い、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたその実を食べてしまいました。はたして人は本当に「目が開け、神のように善悪を知る者」になったのでしょうか。全然、全くそのようなものにはなりません。善悪を知る者となり、目が開かれているのなら、どうしてこの世界の中には憎しみと戦い、争い、奪い合いが満ちているのでしょうか。悪魔である蛇は、人をまんまと唆して、神様のもとから人を引き離してしまっただけです。

63 人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。

ここには、本当に私たちの目を開く者はなんであるかという事が記してあります。私たちの生まれつきの性質、肉は何の役にも立たない。それは人が神様のお言いつけを破って神様のもとを追放されて以来、何の助けにもならないものとなりました。しかし、霊は人を生かします。イエス様が私たちに話してくださった言葉こそ、霊であり、命です。それに対してつぶやかず、つまずかず、ひどい言葉だ、誰がそんなことを聞いていられようかと語らない者は幸いです。

64 しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。イエスは、初めから、だれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知っておられたのである。

70 イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちの一人は悪魔である」。

71 これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

「あなた方のうちのひとは悪魔である」。これは恐ろしい言葉です。イエス様に、お前は悪魔だなどと言われたら、私たちはどのようになってしまうのでしょうか。これに似た経験をした主の弟子がいました。それはペテロです。

マタイ16:21 この時から、イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。

16:22 すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。

16:23 イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。

16:24 それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

16:25 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。

「神のことを思わないで、人のことを思っている」それが神様の邪魔になります。自分の思いが、知らず知らずのうちに神様のことを思わない、唯々自分よがりの思いになっている時、それが神様の邪魔となります。

私たちはひたすらこの御言葉をもって心を吟味したいと思います。

63 人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。

65 そしてイエスは言われた、「それだから、父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできないと、言ったのである」。

6:66 それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。

67 そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去ろうとするのか」。

68 シモン・ペテロが答えた、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。

69 わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。

「父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできない。」と言いますように、救いは狭い門に入る出来事です。自らの熱心でも力でもできるものではなく、父なる神様が導いてくださることです。神様のお導きであれば、主のもとに残った弟子たちのように、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」という事が出来ませんが、選ばれたユダであっても、十二弟子のひとりでありながら、主を裏切る者もいました。

このような出来事を御言葉から味わいます時に、申命記30章の御言葉が思い出されます。

- 1 わたしがあなたがたの前に述べたこのもろもろの祝福と、のろいの事があなたに臨み、あなたがあなたの神、主に追いやられたもろもろの国民のなかでこの事を心に考えて、
- 2 あなたもあなたの子供も共にあなたの神、主に立ち帰り、わたしが、きょう、命じるすべてのことにおいて、心をつくし、精神をつくして、主の声に聞き従うならば、
- 3 あなたの神、主はあなたを再び栄えさせ、あなたをあわれみ、あなたの神、主はあなたを散らされた国々から再び集められるであろう。
- 4 たといあなたが天のはてに追いやられても、あなたの神、主はそこからあなたを集め、そこからあなたを連れ帰られるであろう。
- 5 あなたの神、主はあなたの先祖が所有した地にあなたを帰らせ、あなたはそれを所有するに至るであろう。主はまたあなたを栄えさせ、数を増して先祖たちよりも多くされるであろう。
- 6 そしてあなたの神、主はあなたの心とあなたの子孫の心に割礼を施し、あなたをして、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主を愛させ、こうしてあなたに命を得させられるであろう。
- 7 あなたの神、主はまた、あなたを迫害する敵と、あなたを憎む者にと、このもろもろののろいをこうむらせられるであろう。
- 8 しかし、あなたは再び主の声に聞き従い、わたしが、きょう、あなたに命じるすべての戒めを守るであろう。
- 9 そうすればあなたの神、主はあなたのするすべてのことと、あなたの身から生れる

者と、家畜の産むものと、地に産する物を豊かに与えて、あなたを栄えさせられるであろう。すなわち主はあなたの先祖たちを喜ばれたように再びあなたを喜んで、あなたを栄えさせられるであろう。

10 これはあなたが、あなたの神、主の声に聞きしたが、この律法の書にしるされた戒めと定めとを守り、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主に帰するからである。

11 わたしが、きょう、あなたに命じるこの戒めは、むずかしいものではなく、また遠いものでもない。

12 これは天にあるのではないから、『だれがわれわれのために天に上り、それをわれわれのところへ持ってきて、われわれに聞かせ、行わせるであろうか』と言うに及ばない。

13 またこれは海のかなたにあるのではないから、『だれがわれわれのために海を渡って行き、それをわれわれのところへ携えてきて、われわれに聞かせ、行わせるであろうか』と言うに及ばない。

14 この言葉はあなたに、はなはだ近くあってあなたの口にあり、またあなたの心にあるから、あなたはこれを行うことができる。

15 見よ、わたしは、きょう、命とさいわい、および死と災をあなたの前に置いた。

16 すなわちわたしは、きょう、あなたにあなたの神、主を愛し、その道に歩み、その戒めと定めと、おきてとを守ることを命じる。それに従うならば、あなたは生きながらえ、その数は多くなるであろう。またあなたの神、主はあなたが行って取る地であなただを祝福されるであろう。

17 しかし、もしあなたが心をそむけて聞き従わず、誘われて他の神々を拝み、それに仕えるならば、

18 わたしは、きょう、あなたがたに告げる。あなたがたは必ず滅びるであろう。あなたがたはヨルダンを渡り、はいつて行って取る地でながく命を保つことができないであろう。

19 わたしは、きょう、天と地を呼んであなたがたに対する証人とする。わたしは命と死および祝福とのろいをあなたの前に置いた。あなたは命を選ばなければならない。そうすればあなたとあなたの子孫は生きながらえることができるであろう。

20 すなわちあなたの神、主を愛して、その声を聞き、主につき従わなければならない。そうすればあなたは命を得、かつ長く命を保つことができ、主が先祖アブラハ

ム、イサク、ヤコブに与えると誓われた地に住むことができるであろう」。

11 わたしが、きょう、あなたに命じるこの戒めは、むずかしいものではなく、また遠いものでもない。

12 これは天にあるのではないから、『だれがわれわれのために天に上り、それをわれわれのところへ持ってきて、われわれに聞かせ、行わせるであろうか』と言うに及ばない。

しかし、わたくしたちが皆目定めを行うことが出来ず、御言葉に聞き従う事も出来ず、悪魔の意のままに操られて、神のことを思わないで、人のことをばかり思い、神様の邪魔をする者でありましたのに、神様は私たちのために天におられたイエス様を、われわれのために地上に遣わし、聞かせ、御業を行わせてくださったのです。救われるために主を遣わし、14 「この言葉はあなたに、はなはだ近くあってあなたの口にあり、またあなたの心にあるから、あなたはこれを行うことができる。」とあることが実現するように、聖霊を遣わすために神様はそのひとり子を十字架につけて下さったのです。

ヘブル10:39 しかしわたしたちは、信仰を捨てて滅びる者ではなく、信仰に立って、いのちを得る者である。

(新共同訳)ヘブライ 10:39 しかし、わたしたちは、ひるんで滅びる者ではなく、信仰によって命を確保する者です。

(新改訳)ヘブル10:39 私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

19 わたしは、きょう、天と地を呼んであなたがたに対する証人とする。わたしは命と死および祝福とのろいをあなたの前に置いた。あなたは命を選ばなければならない。

ヘブル 4:15 この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。

4:16 だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか。

2:17 そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪を
あがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。

2:18 主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けるこ
とができるのである。

私たちは、神様の恵みと慈しみ、お守りによって命の道を進むことが出来ることを感謝
いたしましょう。聖霊によって、イエス様によって、永遠の命の言葉を理解し、守り行
うことが出来る、いのちの道の開かれたものとして、命を選び取ることが出来るものと
されていることに感謝いたしましょう。